

## 学びと創りの心理学

弓 野 憲 一

(弓野教育研究所: 〒422-8078 静岡市駿河区さつき町 3-10-108)

### [使用上の注意]

この PDF-Book の著作権は弓野が所有しています。

この PDF-Book を購入した「**あなたのみ**」が、閲覧の権利を持ちます。

コピーして他者に譲ることは、著作権の侵害に当たります。

\*この本の内容を引用するときは、弓野教育研究所のホームページ(<http://dyumiken.com/>)

「学びと創りの心理学:PDF-Book」の「ページ: Pp.xxx-yyy」より引用と

必ず記載してください。

## はじめに

わが国の社会や学校においては、「学び」が強調される。世界からあらゆるものを学ぶというこの真摯な態度によって、日本は短時間で世界の先進国の仲間入りを果たした。しかし、学びのみが学習の総てであるとする価値観が社会を覆い続けると、学習のもう一つの軸である「創り」が欠けてくる。残念ながら、一部の学校や家庭を除くと、創りに価値を置いているところは少ない。学問や芸術や科学技術等は、学びの上に立った新たな知識・表現・技術等、すなわち私の提議する「創り」によって発展してきた。創りでは、個性を認め、人と異なった意見を尊重し、議論・討論を奨励し、思考過程を大切にする。それゆえ創りは、日本の学校を覆っている、教科書内容の理解・記憶とその再生で善しとする学びと一線を画することになる。

学びの成功には「知能」が深く関わっているのに対し、創りの成功には「創造性」が関与する。知能テストで知能を測り、創造性テストで創造性（発想力）を測って、両者の相関をとると、相関係数の値は小学校の高学年以降はほぼゼロの付近に留まる。ということは、高い知能をもった成績のいい子どもが、必ずしも新たな優れたアイデアを考えつくとは限らないのである。学校の成績のあまり優れない子どもの中にも、多くのアイデアマンがいることになる。

西欧先進国においては、個性や創造性は社会の中に根付いている。その社会に生まれついた子どもは、生の瞬間よりこれらを伸ばすことが運命づけられている。しかしながら日本においては、個性や創造性は大切であるといわれながらも、「出る杭は打たれる」の格言にあるように、それらはつぶされる運命にある。子どもの成長過程において、それらの大切さを擁護する余程しっかりとした教師・親・社会がなければ、子どもは「脱個性」「脱創造性」に向かい、一部の子どもを除いて平均的で非創造的な大人へと成長してしまう恐れがある。

日本において、これらの個性や創造性を伸ばすにはどうしたらいいのであろうか。まず第一に、子どもの「自尊感情」を高めることである。世界の子どもと比べると、日本の子どもの「自尊感情・自己信頼」は低く、「孤独感」が異常に高いことが知られている。子どもを認め、ほめることで自尊感情を高める工夫が大切である。二番目に、日本の教育で常に志向される「学び」を越えて、「創り」の教育を増やすことである。学びの姿勢は謙虚であって日本の学校や社会では歓迎されるが、よく吟味してみると、学問・科学技術を創り出す訓練を含んでいないし、さらに獲得した知識やスキルに対する責任を放棄している。それゆえ、学びのみに専念すると、変化の激しい社会に出た時に、困難な物事に立ち向かう資質を欠いてしまう。三番目に、子どもの教育にかかわる大人が、個性や創造性が何を意味するかを明確にとらえ、それらが伸

びるように配慮する必要がある。「ほめる」「ただす」は、配慮を有効にする貴重な方策である。個性や創造性が何を意味するかを知らなければ、たとえ、それらを伸ばせる場面に遭遇しても、ほめる、ただすを効果的に使うことはできない。

この本では、学校や家庭において恒常的に用いられている「ほめる」を、いかにして自尊心・個性・個性的 IQ・知能・創造性の育成に援用することができるかを、筆者のこれまでの体験や研究データを基に探索的に提案する。個性や創造性を伸ばすには、「しかる」は有用ではなく、最小限に押さえることが望まれる。それに代えて「ほめる」「ただす」を多く用いることを提案する。

絶え間なく西欧から学び続けている私たち日本人は、それらの国に自分たちの理想を重ねがちである。そしてそれらの人々の社会で尊重され、私たちの社会では軽視されがちな「個性や創造性」に憧れる。これは、西欧崇拜や舶来品を尊ぶ風潮とも一致する。しかしながらこの本においては、西欧世界に対する単なる憧れだけではなく、もっと深刻な意味で、なぜ自尊心を高め、個性や創造性の育成が急務であるのかを提議し、それらの育成に関連した「ほめ言葉」「ほめ方」を提唱する。筆者の提案する「創りの教育」が成功して、おごることなく自信をもって、国内はもとより世界の中で活躍できる日本人が多く出現することを希求する。

この本の内容は、一部は調査等のデータに基づいているが、かなりの部分は筆者の願いをまとめたものである。それゆえ、不十分な記述や一貫性のない表現も多く含まれていると思う。お気づきの方のご指摘をお受けしたい。

筆者は三十数年間、教育心理学の研究に携わってきた。二、三年前より興味を持ち始めた「ほめる」をキーにして、これまでの研究を一冊の本にまとめる機会を得た。弓野研究室での長い議論に参加され巣立った多くの院生・学部生の皆さんの尽力に感謝する。また長年に亘って、筆者の愚痴を聞き入れながら研究を支えてくれた妻スミ子、及び創作のエネルギーを与えてくれた「綾」「亜希」「慧」の三人の子どもにも感謝の意を表したい。

2011年5月11日

世界の創造性教育を五十年に亘り率いてきたトランスの在職した  
ジョージア大学 (University of Georgia) の図書館にて

(著者 記す)

## 目次

### はじめに

## 第一章 学びと創り(5)

### 1. 学びとは何か

### 2. 創りとは何か

### 3. 学びと創りの特徴

### 4. 日本と西欧先進国の学校における創りの比率

### 5. 学びと創りの心理

### 6. PISA 型読解力における学びと創り

(1) PISA 型学力とは何か

(2) PISA 型読解力を問う問題

### 7. 創りと個性・創造性の関係について

### 8. 日本ではなぜ学びが優勢なのか

(1) 宗教、(2) 自然観、(3) 人間観、(4) 歴史、(5) 辺境人の心性、(6) 道の  
繁栄、(7) 現代的産業の追随国、(8) 教育システム、(9) 日本型学びの特徴

### 9. なぜアメリカでは創りが重要視されるのか

(1) フロンティア・スピリッツが健在、(2) 常に創造的問題解決が要求される国、(3)  
軍事・経済の超大国である、(4) 創造性がプラスに評価される、(5) 創造性が高収入に直  
結する、(6) 創造性を発揮できる環境が充実している、(7) 創造性を発揮できる職業・ポ  
ジションが多い、(8) 短期間で成果が求められる、(9) カリキュラムが充実、(10) 母国  
語で学問ができる、(11) 創造性を伸ばせる教授が大勢いる、(12) ギフティド・タレンティ  
ド教育がある

## 第二章 学びのみで日本に未来はあるか (22)

### 1. 学びの歴史とその限界

### 2. 学び・創りと今後の日本の繁栄

### 3. 学びを越えて創りへ

### 4. 創りを推奨する教育

- (1) 生きる力と創り
- (2) 総合的学習の挫折と再出発
- (3) 総合的学習の成功例
- (4) 総合的学習の過程をほめる

### **第三章 知能と創造性の心理(33)**

#### **1. 知能**

- (1) 知能とは何か
- (2) 知能の測定
- (3) 知能と学力

#### **2. 創造性**

- (1) 創造性とは何か
- (2) 発散的思考と創造性
- (3) 創造性の構成因子をほめる
- (4) 創造性の測定

#### **3. 知能と創造性の相関**

#### **4. 知能と創造性の発達**

- (1) 知能の発達
- (2) 創造性の発達

#### **5. 創造的な子どもの性格特性**

#### **6. 学び・創りと知能・創造性の関連**

- (1) 学びと知能
- (2) 創りと創造性
- (3) 個人としての学びと創り

### **第四章 しかる・ほめる・ただすの心理(47)**

#### **1. しかる・ほめる・ただすの心理的意味**

- (1) しかるの心理的意味
- (2) ほめるの心理的意味
- (3) ただすの心理的意味

## **2. しかって個性や創造性が伸ばせるか**

- (1) しかって個性や創造性は伸ばせない
- (2) しかる雰囲気においては、創造的なアイデアは生まれない

## **3. ほめる雰囲気をつくる**

### **4. 学校においてほめて個性と創造性を伸ばす**

### **5.ブレインストーミング実施後のほめかた**

## **第五章 知能と創造性を伸ばす(52)**

### **1. ほめて知能を伸ばす**

- (1) 応答的環境を整える
- (2) 教育環境を整える
- (3) 学校の授業を工夫する
- (4) 知能を伸ばすほめ言葉例

### **2. ほめて創造性を伸ばす**

- (1) 創造的行動を発達に応じてほめる
- (2) 創造性を伸ばすほめ言葉例

### **3. ほめる教育**

- (1) 教室で何をほめるか
- (2) 富山市五福小学校のほめる教育

### **4. 創造性を伸ばす授業を展開する**

- (1) 学校で創造性を育てる方法
- (2) 創造性を育てる授業

### **5. 学校と家庭で好奇心と創造性を伸ばす**

- (1) 学校で好奇心・創造性を伸ばす工夫
- (2) 家庭で好奇心・創造性を伸ばす工夫

## **第六章 ほめて自尊感情を高める(66)**

### **1. 自尊感情とは何か**

### **2. なぜ自尊感情は大切か**

### **3. 日本の子どもの自尊感情と心理的特性**

- (1) 日本・米国・中国の中学生の比較から
- (2) 日本とオランダの小・中学生の自尊感情
- (3) 世界の子どもの孤独感

#### **4. なぜ日本の子どもの孤独感は高く自尊感情は低いのか**

#### **5. しかる・ほめる文化と自尊感情**

- (1) 日本はしかる文化が主流
- (2) しかる文化では達成が困難な能力・態度
- (3) しかる文化は多くの子どもの自尊感情を下げる

#### **6. ほめられ経験と自尊感情**

#### **7. 自尊感情を高める働きかけと低める働きかけ**

#### **8. 個性・創造性の育成と自尊感情**

#### **9. ほめについての教育心理学的研究**

### **第七章 さまざまな個性(84)**

#### **1. 個性とは何か**

#### **2. さまざまな個性**

- (1) 知覚・認知と個性
- (2) 知能・創造性と個性
- (3) 体型と個性
- (4) 性格特性と個性
- (5) 価値と個性

### **第八章 今なぜ個性・創造性が重要か(91)**

#### **1. 個性と創造性**

#### **2. 学問・科学技術の進展と個性・創造性**

#### **3. 知識基盤社会と個性・創造性**

#### **4. ライフスタイルと個性・創造性**

#### **5. 教育改革と個性・創造性**

### **第九章 ほめて達成動機を伸ばす(96)**

## **1. 達成動機と個性**

## **2. 達成動機の測定**

## **3. 達成動機の個人差、家庭差、地域差**

## **4. ほめて達成動機を伸ばす方法**

- (1) 両親が子ども時代に独立を奨励する
- (2) ポジティブ（肯定的な）な感覚で達成を経験させる
- (3) 幸運ではなく、自分の能力と努力による達成を体験させる
- (4) ほめ言葉・ほめ方工夫する
- (5) 成功に対して注意深くほめる

## **5. 問題解決への動機づけを高める**

- (1) 日常につながる問題解決場面を設定する
- (2) 宿題の意味と理由を与える
- (3) 好奇心を誘いだす
- (4) 例を示す
- (5) 間違いを歓迎する

# **第十章 ほめて個性的 IQ を伸ばす(104)**

## **1. 個性的 IQ とは何か**

## **2. 8つの個性的 IQ**

(1) 学問的 IQ: Academic IQ(AIQ)、(2)創造性 IQ: Creativity IQ(CIQ)、(3)巧緻性 IQ: Dexterity IQ(DIQ)、(4)共感性 IQ: Empathy IQ(EIQ)、(5)判断力 IQ: Judgment IQ(JIQ)、(6)モチベーション IQ: Motivation IQ(MIQ)、(7)パーソナリティ IQ: Personality IQ(PIQ)、(8)リーダーシップ・フォロワーシップ IQ: Leadership & Followership IQ (L&FIQ)

## **3. 個性的 IQ をほめる言葉を増やす**

- (1) 教師と大学生が学校場面で使えるほめ言葉の数（調査1）
- (2) 個性的 IQ 別に分類したほめ言葉の出現率
- (3) ヒントがあるとほめ言葉はどれほど増えるか（調査2, 3）
- (4) ワークショップで得られた個性的 IQ を伸ばすほめ言葉

## **文 献(115)**



